



こだち News

巻頭言

5年後、10年後はどう成長しているかを考えての心理臨床

児童精神科医
村田 豊久

目次

「こだち設立八周年記念講演会」のご報告 2

研修会のご報告 3

TOPIC 3

掲示板 4

九州大学こころとそだちの相談室
第九回定時総会 & 特別企画のご案内

日時
5月23日（土）
11時～11時45分：総会
13時～15時30分：特別企画「鑑幹八郎先生講演会」

場所
九州大学西新プラザ大会議室

乳幼児健診はもう半世紀も前から日本では制度化され、ほとんどの市町村で着実に実施され優れた成果を上げてきました。それは日本が世界に誇ってよいことの一つです。そして近年は1歳6か月時にも健診が施行されるようになりました。そして身体面の発達だけでなく、精神発達、心理的な生育が順調に進んでいるかも判定しようとする機運が起こってきて、各地域がそれぞれの基準をつくり、その後の対策をねろうとしています。1歳過ぎると、共同注視の現象がみられるか、お母さんと交替遊びをやるかを重要視しているところもあります。そこでは臨床心理士の役割が大きくなります。

乳幼児健診で精神発達に心配がありそうだとされる赤ちゃん、情緒面の不安定さがあるかわれる赤ちゃんは、定期的な療育の働きかけをなされることも多くなってきました。しかし、心配があるすべての赤ちゃんを療育のプログラムに組み込むというわけにはいきません。ご家族がそこまでしなくてもと思われる場合もありますし、また希望があっても市町村の予算、マンパワーなどの制約によって、ぜひ早期の療育や心理的働きかけが必要だと判断される赤ちゃんに限るということになってきます。現在、精神発達についての知見を持った優秀な保健師さんが増え、乳幼児健診や母子援助を積極的に進めておられますが、子どもの心理的な面の判定や、心理的な働きかけや母子の療育となると、やはり臨床心理学の造詣の深い方々の出番となります。

子どもの発達の的確な判定はとても難しいものです。赤ちゃんの視線の向けかた、手足の使い方、歩いているときの様子、周りへの関心、母への甘え方の特徴、言葉をどう使うか、周りと溶け込もうとしているか、など細かなところから、全体としての子どもの生き生きさや楽しみ方のあり様などまで感覚的に把握しなくてはならないからです。それは一度の対面、面接、ふれあいでは無理で、多くの場合、半年、一年と子どもとの関わりの中で、子ども変化を感じ取っていかなくてはなりません。その感じ取りの能力はやはりそのような子どもが5歳になったらこうなった、8歳になったらこう変化した、10歳になったらここまで成長したということ、自分で体験的に知って今にフィードバックさせて学ぶということにつきます。

子ども臨床の難しさは今ここにいるこの子が5年後、10年後はどう成長しているかの基準を考え、この素質を持ったその子が最も良い経過をたどるような働きかけをしてやらなくてはならないことです。それは心理臨床にかぎらず、学校教育、小児医学などすべての分野の方々が目指すことですが、とりわけ子どもの発達の全体像を描き、子どもを全人間的に伸ばしてやらなくてはならない臨床心理士には大切になってきます。

「こだち設立八周年記念講演会」のご報告

村田豊久先生 「自閉症スペクトラムの生涯発達」

2014年11月2日（日）に九州大学医学部百年講堂中ホールにて、こだち設立八周年記念講演会を開催致しました。講師に児童精神科医の村田豊久先生をお迎えし、「自閉症スペクトラムの生涯発達」という演題でご講演を頂きました。以下に講演会の様子をご報告致します。

まず、講演会は自閉症スペクトラムの歴史や概念についての概観から始まりました。カナーとアスペルガーの事例からDSM-5に至るまで、自閉症スペクトラムの歴史や概念について明快にご説明をしてくださいました。中でも興味深かったのは、自閉症について考えるためには「自閉とは何か」を問い直す必要があるというお話です。村田先生の自閉の定義は、「自分の中に生じてくる生理的な感覚・知覚を大切に、そのナマの感覚的印象に基き世界をとらえようとする。周りとの関係に気遣い、周りの人々がとらえているとらえ方にとらえ直していき、共通の概念、抽象にそって考えるのは苦手」というものです。自閉症スペクトラムを有する方の世界の捉え方を理解していこうとする定義そのものが支援的であるように感じられました。

次に、自閉症児の療育に話題が移っていきます。村田先生は、言葉による働きかけだけでなく、身体感覚的に関係性を深めていくことが重要であるという観点から、「心理運動」と呼ばれる身体活動を取り入れた療育を行ってこられました。また、1969年9月から現在まで続く自閉症児への集団遊戯療法を主

体とした療育活動である「土曜学級」の紹介もありました。村田先生はご自身の若かりし頃のお写真をご披露されながら、当時の療育活動の様子を楽しそうに語っていらっしゃいました。

最後に、自閉症スペクトラムの予後に関するお話がありました。リサーチの結果に加え、村田先生が長年関わってこられた患者さんの事例報告がありました。自閉症スペクトラムを有する方々は、中年期に入ると落ち着いた生活習慣を身に着け、周囲とも調和した生活を送ることができるようになる傾向があるそうです。

質疑応答では、参加者の皆様が積極的に質問をなさっていました。障害の告知に関する質問に対しては、村田先生は患者さんに告知したことがないと仰って、“あなたは異常だとこちらが決められないのではないか”というお考えを述べられていました。正常か異常かの分類による理解ではなく、相手と同じ人として受け止めて理解していくことの大切さを教えていただけたように思います。

参加者の感想では、「村田先生の臨床体験がありありと伝わってきて、自分の支援について見直す良い機会となりました。」「先生のどこまでも伴走される姿勢に感銘を受けました。」「中高年期の話を伺い、希望がもてました。」といったものがありました。村田先生の長年にわたる臨床体験の一端を教えて頂いたことと、学童期や思春期に比べるとまだ報告の少ない中年期の発達の様相を知ることができたことが、参加者の皆様の心に残ったようです。



研修会のご報告

「こだちゼミナール」

「こだちゼミナール」は、今年度で5回目の開催となる市民向け心理学講座です。講座は九州大学の教員によるオムニバス形式で、6月から毎月1回、全8回で構成されました。

今年度のテーマは「人間関係とストレス―多様な観点から―」でした。現代社会において重要なテーマについて、各教員の専門性を生かした講義が展開されました。中にはリピーターの方もいらっしやり、ご好評を頂いています。参加者の皆様は心理学のエッセンスを学ぼうという熱心な雰囲気に満ちていました。

こだちは、次年度以降も地域の皆様の暮らしに役立つような活動を展開して参ります。

「こだち精神医学講座」

2015年2月1日（日）10:00-17:00@西新プラザ

「こだち精神医学講座」は今年度で2回目の心理職向けの講座です。今回のテーマは「高齢者の心理臨床を学ぶ」でした。22名の方にご参加頂きました。講師に三木浩司先生（小倉記念病院）をお招きし、「認知症の基礎、検査や治療の基本的考え」と「高齢者の心理状態、臨床的関わり」についてご講義をして頂きました。その次に、事例検討が行われました。講義と事例検討のどちらにおいても、三木先生は暖かく、かつ鋭いコメントをくださいました。高齢者の心理臨床について広く深く学ぶことのできる充実した時間になったのではないのでしょうか。

TOPIC

福岡市教育委員会との協働事業が 「平成26年度ふくおか共助社会づくり表彰 協働部門賞」受賞

「ふくおか共助社会づくり表彰」とは？

NPO・ボランティアや企業、その他団体の公益的活動の促進及び、NPO等の社会的な信頼性を高めることを目的とした福岡県の取り組みです。

協働事業：「不登校などの児童生徒への臨床心理学を生かした支援」

福岡市教育委員会と協働で行った「ここりーと」「スクールメンタルサポーター（以下、SMS）」「こころの授業」の3事業が表彰を受けました。「ここりーと」は不登校などの学校生活への適応に困難を抱える状態にある児童生徒への居場所活動です。福岡市との協働により、「ここりーと」が学校の出席認定されました。「SMS」は臨床心理学を専攻する大学院生を学校現場に派遣し学習補助や個別相談などを行う活動です。「こころの授業」は、不登校の予防や心理的成長の促進をねらいとして、ストレスマネジメント等を学校で実施し、児童生徒の対人コミュニケーション能力の向上や関係性の向上などを図る活動です。

このたび、協働事業が表彰を頂いたことをとても光栄に思います。今後も、臨床心理学の専門性を生かした事業を展開して参ります。



研修会のお知らせ

「こだちロールシャッハ研修会」@九州大学西新プラザ2F 中会議室

第1回 2015年 7月26日 第2回 2015年 9月13日 第3回 2015年10月18日 第4回 2015年 12月6日
第5回 2016年 1月24日 第6回 2016年 2月14日 （第1回、第2回は14～17時、第3回～第6回は14時～17時30分）

「事例で学ぶテストバッテリー研修会」@九州大学西新プラザ2F 中会議室 ※思春期編と成人編の2回開催予定

①成人編：6月28日（日）10:00-17:00 ②思春期編：11月15日（日）10:00-17:00

掲 示 板

こだちよりお知らせ

書籍紹介

『教育と医学 2014年11月号
特集：子どもの問題行動への対応を考える
―暴力行動を中心に―』

慶應義塾大学出版会

子どもの問題行動（主に暴力行動）について、的確な臨床心理学的理解と対応を行うことが心理職に求められています。この書籍では、大人との関係性からみた感情制御や情動調整のメカニズム、学校現場における問題行動の理解と対応や予防、虐待や非行事例への関わりのコツ、などが論じられています。広い視野を持って問題行動を捉えることに役立つ一冊になるのではないのでしょうか。なお、当法人理事長の田嶋誠一が巻頭随筆を執筆しております。



『新版 心理臨床家の手引』

鑑幹八郎・名島潤慈編著
誠信書房

当法人の第九回定時総会特別企画でご講演頂く鑑幹八郎先生のご著書（名島潤慈先生との共著）です。鑑幹八郎先生は第一章「心理臨床家の現況とアイデンティティ」、第二章「心理臨床家の倫理」、そして補章二「心理臨床活動に関する関係法規」をご執筆されています。心理臨床家とは何者か？という基本的かつ根本的な問いについて、改めて考えさせられます。心理臨床の初心者からベテランまで全ての心理臨床家に役立つ一冊です。



〇入会のご案内

こだちは8年目を迎えました。地域に定着した心理臨床サービスを継続するには、収支の安定が求められます。

NPO法人の会員となって私たちの活動を支援いただけると幸いです。会員になっていただける方はぜひこだちまでご連絡ください。なお、会費は1年毎の更新制です。よろしくお願いいたします。

〇ご支援のお願い

当NPO法人では会員以外の方からも、ご寄付をおまちしております。関心や興味をもたれた方はぜひご連絡ください。

編集後記

今回のニュースレターのカラーリングは、春を意識して桜色を取り入れてみました。早くお花見で美味しいものを食べたい、お酒を飲みたい…。「花より団子」なYであります。(Y)

交通のご案内



■ ■ 地下鉄でお越しの方 ■ ■

福岡市営地下鉄空港線西新駅下車後
7番出口より徒歩にて約10分



特定非営利活動法人 九州大学こころとそだちの相談室

〒814-0002

福岡市早良区西新2-16-23 九州大学西新プラザ内 産学交流棟

TEL 092-832-1345 FAX 092-832-1346

HP http://www.geocities.jp/npo_kodachi/